

小規模短大における図書館事務管理ソフトについて（第一報）

On Computer Software for Managing Library Work in a Small-scale Junior College (The first Report)

山 岸 亘

1. はじめに

高等教育機関のうち短大、高専には在学人数が500人から1000人前後の小規模校が多い。このような教育機関では一年間に購入する図書500冊から3000冊程度であり、図書館で働く職員は2人から5人程度である。

平成4年度の私立短大の図書館におけるOA化のうち、目録の機械化はカード目録とコンピュータのファイルまたはデータベースとを併用している図書館は約32%で、カード目録だけを使用している図書館は65%である¹⁾。この事実からカード作成のコンピュータ化がまだ進展せず、従って蔵書図書のデータベース化も進んでいないことが推測される。

ハードのコンピュータ式を購入しても、図書館管理のソフトは高額であり、入力項目が多いため労力が大変である。かつまた、入力と出力の方法はわかるがその間は全くブラックボックスであるため職員のコンピュータ能力は高まらず、疲労が気になるばかりである。

これはソフトが小規模校に適していないばかりか職員の能力を高めるように配慮されていないものが多いためである（すべてがそうでなく良いものもある）。

本論は一年に500-1000冊購入し、2-5人

の職員の小規模図書館に適した図書館事務管理コンピュータソフトを作成し、その実施状況を報告するものである。

2. 使用するデータベースとコンピュータ

ソフトを作成し、カード、ラベル、図書台帳を印刷するためのコンピューター式はノートパソコンNEC PC-9801NS/R（メモリ12M増設、120M HDD内臓）とプリンターPC-PR 201Gである。装置としては誠に貧弱なものである。

主に使用するアプリケーション・ソフトはdBASE IVである。dBASEにきめた主な理由はdBASEの多くの利点のうち次の利点からである。

- ① リレーショナル型データベースであり、大規模柔軟なシステムが構築出来る。またすでに評価に定評があり、開発業者の多くがdBASEでアプリケーションを作っている。
- ② 今後も改良され、ヴァージョンアップしていく可能性がある。
- ③ dBASE IVはシステムメモリー変数によりプリンター制御ができ、きめ細かい印刷ができる。この条件は重視している。
- ④ コンパイラーを持っているので、定常な仕事のプログラムはコンパイルしdBASE

環境上でなく、単なる MS-DOS 上で実行
できる。

データベースファイルの作成は dBASE の
コントロールセンター画面でファイル構造を
定義する。現在までに作成したデータベース
は下記のとおりである。

3. 作業順序の概要

データベース番号	フィールド名	型	幅	小数
: B:図書台帳.dbf				
: 133				
: 10/29/92				
1	日付	型	8	小数
2	種別	型	8	
3	別	型	1	
4	1	型	6	
5	2	型	40	
6	著者名	型	40	
7	著者名	型	50	
8	著者名	型	50	
9	著者名	型	6	
10	著者名	型	20	
11	著者名	型	10	
12	著者名	型	20	
13	著者名	型	8	2
14	著者名	型	6	
15	著者名	型	6	
16	著者名	型	14	
17	著者名	型	8	
18	著者名	型	10	
19	著者名	型	10	
20	著者名	型	10	
21	著者名	型	8	
22	著者名	型	40	
23	著者名	型	14	
24	著者名	型	30	
25	著者名	型	30	
26	著者名	型	18	
27	著者名	型	18	
< 合計 >				
490				

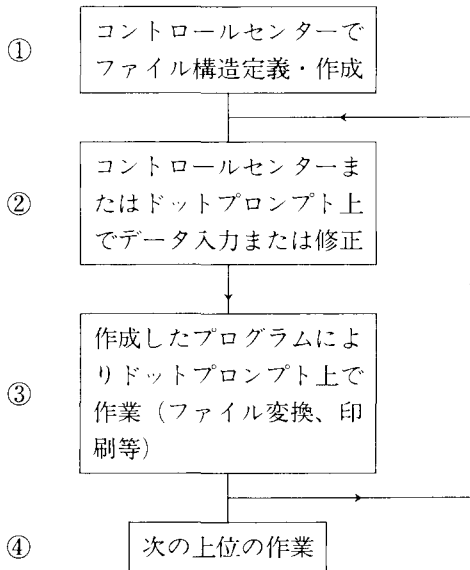
データベース番号	フィールド名	型	幅	小数
: B:雑誌名.dbf				
: 10				
: 10/23/92				
1	日付	型	5	小数
2	種別	型	1	
3	別	型	50	
4	1	型	30	
5	2	型	2	
6	3	型	60	
7	4	型	5	
8	5	型	10	
9	6	型	5	
10	7	型	5	
11	8	型	10	
12	9	型	20	
13	10	型	8	
14	11	型	1	
15	12	型	15	
16	13	型	3	
17	14	型	3	
18	15	型	10	
19	16	型	10	
20	17	型	26	
< 合計 >				
280				

データベース番号	フィールド名	型	幅	小数
: B:雑誌各号.dbf				
: 0				
: 07/20/92				
1	日付	型	5	小数
2	種別	型	8	
3	別	型	4	
4	1	型	4	
5	2	型	3	
6	3	型	1	
7	4	型	50	
8	5	型	8	
9	6	型	8	
10	7	型	8	
11	8	型	8	
12	9	型	1	
13	10	型	1	
14	11	型	8	
15	12	型	24	
16	13	型	150	
< 合計 >				

データベース番号	フィールド名	型	幅	小数
: B:利用者.dbf				
: 0				
: 10/09/92				
1	日付	型	8	小数
2	種別	型	1	
3	別	型	20	
4	1	型	20	
5	2	型	6	
6	3	型	12	
7	4	型	30	
8	5	型	2	
< 合計 >				
100				

データベース番号	フィールド名	型	幅	小数
: B:貸出92.dbf				
: 0				
: 10/28/92				
1	日付	型	8	小数
2	種別	型	20	
3	別	型	2	
4	1	型	8	
5	2	型	1	
6	3	型	8	
7	4	型	44	
8	5	型	8	
< 合計 >				
100				

作業順序の略図を図示しておく。



作業①②③または作業②③を繰り返して仕事を進めていく。特に作業③は仕事のメインになり、実行するにはいろいろなユーティリティーを前もって作成しておかねばならない。

ユーティリティーを使わないときでも dBASE のコマンドだけで相当多くの貴重な作業が出来る。作業②③を実行する際に職員のコンピュータ能力が高まる。

このように作業途中で dBASE の知識を使うように窓をあけ、ユーティリティーはそのメリットを助長するように、意識的に作ってある。そのため組織化された一つの大きいソフトにはしなかった。

職員は dBASE の簡単な基礎知識を事前に勉強しておく必要がある。

4. 作業の具体例

作成したすべてのユーティリティーを示すことは出来ないので、ファイル図書台帳.DBF から図書台帳の印刷までの作業をリストを添えて説明する。

この一連の作業のメインプログラムを示す。

```

*****
**                                     **
**   MN_1.PRG       By Wataru Yamagishi   **
**                                     **
**       図書台帳関連 1 のプログラム       **
**                                     **
**                                     **
**               H5/05/20  note ns/R       **
**                                     **
*****
    
```

```

SET DEFAULT TO I
STORE .T. TO MN
DO WHILE MN
    CLEAR
    CLEAR
    
```

```

@ 1,12 SAY " dBASEのファイルはDISK C:に転送しておく。"
@ 3,15 SAY "   図書台帳関連 1   "
@ 5,12 SAY "1   書名カード表示"
@ 6,12 SAY "2   著者カード表示"
@ 7,12 SAY "3   基本カード表示"
@ 8,12 SAY "4   書名カード印刷"
@ 9,12 SAY "5   著者カード印刷"
    
```

```

@ 10, 12 SAY "6      基本カード印刷"
@ 11, 12 SAY "7      ラベル印刷"
@ 12, 12 SAY "8      図書台帳印刷"
@ 13, 12 SAY "0      制御を dBASE にもどす。"
@ 14, 12 SAY "9      dBASEを終了し、MS-DOSにもどる。"
STORE ' ' TO KEY
@ 16, 12 SAY "番号を入力して下さい。" GET KEY PICTURE '9'
READ
IF KEY="0"
  CLEAR ALL
  CLEAR
  ?? CHR(27)+"[>11"
  @ 10, 15 SAY "d b a s e   に制御が戻ります。"
  RETURN
ELSE
  IF (VAL(KEY)<=0) .OR. (VAL(KEY)>9)
    @ 18, 0
    WAIT " 番号の選択が違います。任意のキイ-を押して下さい。"
    LOOP
  ENDIF
ENDIF
ANS="N"
@ 17, 12 SAY "dBASE file を C: に転送しますか? (Y/N)" GET ANS
READ
  IF ANS="Y" .OR. ANS="y" .OR. ANS="ン"
    !COPY B:*. * C:
  ENDIF
DO CASE
CASE KEY="1"
  DO C:CDB. PRG
  RETURN
CASE KEY="2"
  DO C:CDA. PRG
  RETURN
CASE KEY="3"
  DO C: CDF. PRG
  RETURN
CASE KEY="4"
  DO C:CPB10. PRG
  RETURN
CASE KEY="5"
  DO C:CPA10. PRG
  RETURN
CASE KEY="6"
  DO C:CPF10. PRG
CASE KEY="7"
  RETURN
CASE KEY="7"
  DO C:C_B_6. PRG
  RETURN
CASE KEY="8"
  DO C:DAITYOU. PRG
  RETURN
CASE KEY="9"
  QUIT
ENDCASE
ENDDO

```

(右上へ続く)

プログラムからわかるように、RAM disk C: にすべてのデータベースファイル、ユーティリティを転送しておき作業を始める。

ここでの作業は 1. 書名カード表示、
2. 著者カード表示、3. 基本カード表示、

4. 書名カード印刷、5. 著者カード印刷、
6. 基本カード印刷、7. ラベル印刷、
8. 図書台帳印刷の 8 工程の仕事が実行できる。

1. 書名カード表示のプログラムリストを示す。

```
*****
**                               **
**  CDB.PRG   By  Wataru Yamgishi  **
**                               **
**   図書台帳関連 1 のプログラム   **
**                               **
**           H5 05 23 note ns R    **
**                               **
*****
```

```
CLEAR
SET TALK OFF
SET DEVICE TO SCREEN
SET DATE ANSI
USE B:図書台帳
LCN1=SPACE(5)
LCN2=SPACE(5)
@ 10,20 SAY "表示する最初のレコード番号？" GET LCN1
READ
@ 13,20 SAY "表示する最後のレコード番号？" GET LCN2
READ
REC1=VAL(LCN1)
REC2=VAL(LCN2)
GO REC1
COUNTN=REC1
DISPN=1
DO WHILE (.NOT.EOF()).AND.(COUNTN<=REC2)
CLEAR
@ 10,0 SAY RIGHT(STR(DISP),3) "枚目"
@ 11,3 SAY "表示"
@ 1,10 TO 1,70 DOUBLE
@ 2,13 SAY 分類記号
@ 2,25 SAY 書名読み
@ 3,13 SAY 著者記号
@ 4,13 SAY 巻次
@ 4,25 SAY LEFT(書名,44)
@ 5,25 SAY LEFT(副書名,44)
@ 7,25 SAY 著者 1
@ 8,25 SAY 著者 2
@ 10,25 SAY 出版地
@ 10,37 SAY 出版者
@ 10,60 SAY 出版年
@ 11,24 SAY RIGHT(STR(頁数),4) " P"
@ 11,37 SAY RIGHT(STR(大きさ),2) " cm"
@ 11,55 SAY STR(受入価格) " 円"
@ 12,13 SAY RIGHT(STR(登録番号),5)
@ 12,25 SAY シリーズ
@ 13,24 SAY " I S B N : " I S B N
@ 14,13 SAY 受入日
@ 14,25 SAY " 1 : " 書名読み
@ 15,25 SAY " a 1 : " 著者名 1 読
@ 16,25 SAY " a 2 : " 著者名 2 読
@ 1,10 TO 18,10 DOUBLE
@ 1,70 TO 18,70 DOUBLE
@ 18,10 TO 18,70 DOUBLE
```

(左から続く)

```
WAIT
DISPN=DISPN+1
COUNTN=COUNTN+1
SKIP
ENDDO
CLEAR
RETURN
```

次に4. 書名カード印刷のプログラムリストを示す。

B5の縦の単葉紙に3枚のカードが印刷するように設計されている。また10インチの連続紙に3枚のカードを印刷し、ミシン目をス

```
*****CPB10.PRG*****
***** dBASE 4 VER.2.0 *****
** 10 inch 連続紙に印刷 **
** H5 06 01 **
*****
CLEAR
SET TALK OFF
SET CONFIRM ON
SET DATE ANSI
SET DEVICE TO SCREEN
wrap = .T.
plength = 60
padvance = "linefeeds"
USE B:図書台帳
SET COLOR TO BG
LCN=SPACE(5)
@ 10.20 SAY "最初のレコード番号? " GET LCN
READ
RN=VAL(LCN)
GO RN
SET COLOR TO G
PN=SPACE(5)
@ 12.20 SAY "印刷するカードの枚数? " GET PN
@ 13.20 SAY "ただし、3の倍数。"
READ
SET COLOR TO W
PNO=VAL(PN)
MAXRN=PNO/RN
CLEAR
SET CONSOLE ON
SET DEVICE TO PRINT
??? CHR(27)+"T"+"20"
DO WHILE (RN<MAXRN).AND.(.NOT.EOF())
@ 0.0 SAY "..."
@ 0.50 SAY "..."
@ 1.1 SAY 分類記号
@ 1.7 SAY 書名読み
@ 2.1 SAY 著者記号
@ 3.1 SAY 巻次
@ 3.7 SAY LEFT(書名,44)
@ 4.7 SAY LEFT(副書名,44)
@ 6.7 SAY 著者1
@ 7.7 SAY 著者2
@ 9.11 SAY 出版地
@ 9.21 SAY 出版者
@ 9.40 SAY 出版年
@ 9.52 SAY INT(RN)
@ 10.10 SAY RIGHT(STR(頁数),4)+" P"
@ 10.21 SAY RIGHT(STR(大きさ),2)+" cm"
@ 10.35 SAY STR(受入価格)+"円"
@ 11.1 SAY RIGHT(STR(登録番号),5)
@ 11.11 SAY シリーズ
@ 12.11 SAY "I SBN: "+I SBN
@ 13.1 SAY 受入日
@ 13.11 SAY " 1: "+書名読み
@ 14.11 SAY " a1: "+著者名1読
@ 15.11 SAY " a2: "+著者名2読
@ 16.24 SAY "○"
@ 18.0 SAY "..."
@ 18.50 SAY "..."
RN=RN+1
SKIP
@ 19.0 SAY "..."
@ 19.50 SAY "..."
(4行へ続く)
```

キップしかつ任意の3の倍数枚のカードが印刷出来るように設計してある。

プログラムリストの後に例として原寸大の出力したカードを入れておく。

```
@ 20.1 SAY 分類記号
@ 20.7 SAY 書名読み
@ 21.1 SAY 著者記号
@ 22.1 SAY 巻次
@ 22.7 SAY LEFT(書名,44)
@ 23.7 SAY LEFT(副書名,44)
@ 25.7 SAY 著者1
@ 26.7 SAY 著者2
@ 28.11 SAY 出版地
@ 28.21 SAY 出版者
@ 28.40 SAY 出版年
@ 28.52 SAY INT(RN)
@ 29.10 SAY RIGHT(STR(頁数),4)+" P"
@ 29.21 SAY RIGHT(STR(大きさ),2)+" cm"
@ 29.35 SAY STR(受入価格)+"円"
@ 30.1 SAY RIGHT(STR(登録番号),5)
@ 30.11 SAY シリーズ
@ 31.11 SAY "I SBN: "+I SBN
@ 32.1 SAY 受入日
@ 32.11 SAY " 1: "+書名読み
@ 33.11 SAY " a1: "+著者名1読
@ 34.11 SAY " a2: "+著者名2読
@ 35.24 SAY "○"
@ 37.0 SAY "..."
@ 37.50 SAY "..."
RN=RN+1
SKIP
@ 38.0 SAY "..."
@ 38.50 SAY "..."
@ 39.1 SAY 分類記号
@ 39.7 SAY 書名読み
@ 40.1 SAY 著者記号
@ 41.1 SAY 巻次
@ 41.7 SAY LEFT(書名,44)
@ 42.7 SAY LEFT(副書名,44)
@ 44.7 SAY 著者1
@ 45.7 SAY 著者2
@ 47.11 SAY 出版地
@ 47.21 SAY 出版者
@ 47.40 SAY 出版年
@ 47.52 SAY INT(RN)
@ 48.10 SAY RIGHT(STR(頁数),4)+" P"
@ 48.21 SAY RIGHT(STR(大きさ),2)+" cm"
@ 48.35 SAY STR(受入価格)+"円"
@ 49.1 SAY RIGHT(STR(登録番号),5)
@ 49.11 SAY シリーズ
@ 50.11 SAY "I SBN: "+I SBN
@ 51.1 SAY 受入日
@ 51.11 SAY " 1: "+書名読み
@ 52.11 SAY " a1: "+著者名1読
@ 53.11 SAY " a2: "+著者名2読
@ 54.24 SAY "○"
@ 56.0 SAY "..."
@ 56.50 SAY "..."
RN=RN+1
SKIP
CLEAR
ENDDO
EJECT
??? CHR(27)+"T"+"20"
wrap = .F.
plength = 66
padvance = "FORMFEED"
SET DEVICE TO SCREEN
SET TALK ON
RETURN
```

909.71	オウサマハンサイ		
Te 54			
2	王さまばんざい		
	寺村 輝夫 著		
	和歌山 静子 絵		
	東京 理論社	1992.11	
	174 P 23 cm	931 円	
45560	「ぼくは王さま」全集2		
	I S B N : 4-652-00127-4		
93.04.22	1 : オウサマハンサイ		
	a 1 : テラムラ テルオ		
	a 2 : ワカヤマ シズコ		

(印刷したカード 原寸大)

以上書名カードの表示・印刷について、プログラムリストを紹介してきたが、著者カードの表示・印刷、基本カードの表示・印刷のプログラムリストについてはアルゴリズムは全く同じであるので省略する。

最後にラベルと図書台帳の印刷についてプ

ログラムリストを示す。これで図書データベース図書台帳、DBFより、カードの表示から図書台帳の印刷まで可能になる。

ラベルは横7インチ×縦10インチのタックフォーム紙(横6個×縦2列計12個のシール)に次のように印刷される。

909.71 ----- Te 54 ----- 3	909.71 ----- Te 54 ----- 4	909.71 ----- Te 54 ----- 5	909.71 ----- Te 54 ----- 6	909.71 ----- Te 54 ----- 9	909.71 ----- Te 54 ----- 10
909.73 ----- P 94 -----	909.73 ----- P 94-2 -----	909.73 ----- P 94-3 -----	E ----- A 97 -----	909.71 ----- Ka 59 -----	909.73 ----- P 92 -----

(印刷された分類ラベル 原寸大)

図書台帳の印刷は横15インチ×縦11インチの連続紙に印刷するか、A4の単葉紙を横置きにして一枚一枚印刷するかの2通りが可能

になるように設計しプログラムした。プログラムリストと出力のサンプル（縮小率0.5）を次に示す。

```
*****DAITYOU.PRG*****
**                               **
**   図書台帳印刷プログラム     **
**                               **
**   15 inch 連続紙に印刷する   **
**                               **
**       H5 06 10                **
*****
**
SET TALK OFF
CLEAR
wrap = .T.
ploffset = 0
lmargin = 0
rmargin = 233
ppitch="CONDENSED"
plength = 77
padvance = "linefeeds"
KB01="┌"·REPLICATE("─",.5)·"┐"·REPLICATE("─",.5)·"└"·REPLICATE("─",.9)
KB02="└"·REPLICATE("─",.18)·"┘"·REPLICATE("─",.5)
KB03="┌"·REPLICATE("─",.5)·"┐"·REPLICATE("─",.5)
KB04="└"·REPLICATE("─",.5)·"┘"
KB0=KB01·KB02·KB03·KB04
KB11="┌"·REPLICATE("─",.5)·"┐"·REPLICATE("─",.5)·"└"·REPLICATE("─",.9)
KB12="└"·REPLICATE("─",.18)·"┘"·REPLICATE("─",.5)
KB13="┌"·REPLICATE("─",.5)·"┐"·REPLICATE("─",.5)
KB14="└"·REPLICATE("─",.5)·"┘"
KB1=KB11·KB12·KB13·KB14
KS21="┌"·REPLICATE("─",.5)·"┐"·REPLICATE("─",.5)·"└"·REPLICATE("─",.9)
KS22="└"·REPLICATE("─",.18)·"┘"·REPLICATE("─",.5)
KS23="┌"·REPLICATE("─",.5)·"┐"·REPLICATE("─",.5)
KS24="└"·REPLICATE("─",.5)·"┘"
KS2=KS21·KS22·KS23·KS24
KB31="┌"·REPLICATE("─",.5)·"┐"·REPLICATE("─",.5)·"└"·REPLICATE("─",.9)
KB32="└"·REPLICATE("─",.18)·"┘"·REPLICATE("─",.5)
KB33="┌"·REPLICATE("─",.5)·"┐"·REPLICATE("─",.5)
KB34="└"·REPLICATE("─",.5)·"┘"
KB3=KB31·KB32·KB33·KB34
@ 2.4 SAY "入力はすべて左に詰めて入力する。"
@ 4.4 SAY "使用する database 名を B:図書台帳 のように入力する。"
DN=SPACE(12)
@ 10.4 SAY "最初のレコード番号="
SN=SPACE(4)
@ 14.4 SAY "最後のレコード番号="
EN=SPACE(4)
SET PEPTYPE TO 1
@ 6.30 GET DN PICTURE "XXXXXXXXXXXX" FUNCTION "K1"
@ 10.30 GET SN PICTURE "XXXX" FUNCTION "K5"
@ 14.30 GET EN PICTURE "XXXX" FUNCTION "K5"
READ
DNA=TRIM(DN)
SRN=TRIM(SN)
SRN=VAL(SRN)
ERN=TRIM(EN)
ERN=VAL(ERN)
SET PEPTYPE TO 0
USE DNA".DBF"
SET DATE JAPAN
GO BOTTOM
RN=RECNO()
GO TOP
SET DEVICE TO PRINTER
SET CONSOLE OFF
***&& ??? CHR(27),"c"."1"
??? CHR(27),"T"."17"
??? CHR(27),">"
GOTO SRN
RENO=RECNO()
NO=1
DO WHILE .NOT.EOF() .AND. RENO<=RN .AND. RENO<=ERN
IF MOD(NO,10)=1
??? CHR(27),"d"."1"          && トラフト カイジヨ
@ 3.1 SAY " "
@ 4.15 SAY "清泉女子学院短期大学図書台帳 (平成5年度 No. )"
??? CHR(27),"d"."1"          && トラフト カイジヨ
@ 5.1 SAY KBO
```

```

***
??? CHR(27) "d" "1"
@ 6.1 SAY " |"
@ 6.3 SAY " 受 入"
@ 6.13 SAY " |"
@ 6.15 SAY " 登 録"
@ 6.25 SAY " |"
@ 6.32 SAY " 著 者"
@ 6.45 SAY " |"
@ 6.52 SAY " 書 名"
@ 6.83 SAY " |"
@ 6.85 SAY " 発 行"
@ 6.95 SAY " |"
@ 6.97 SAY " 受 入"
@ 6.107 SAY " |"
@ 6.109 SAY " 受入先"
@ 6.119 SAY " |"
@ 6.121 SAY " 記 事"
@ 6.131 SAY " |"
??? CHR(27) "d" "1"
***
B
@ 7.1 SAY " |"
@ 7.3 SAY " 年月日"
@ 7.13 SAY " |"
@ 7.15 SAY " 番 号"
@ 7.25 SAY " |"
@ 7.27 SAY " 1"
@ 7.45 SAY " |"
@ 7.47 SAY " 巻次 版次"
@ 7.83 SAY " |"
@ 7.85 SAY " 所"
@ 7.95 SAY " |"
@ 7.97 SAY " 価 格"
@ 7.107 SAY " |"
@ 7.109 SAY " "
@ 7.119 SAY " |"
@ 7.121 SAY " "
@ 7.131 SAY " |"
@ 8.1 SAY KB1
ENDIF
***
ROW=PROW()
??? CHR(27) "d" "1"
@ ROW-1.1 SAY " |"
@ ROW-1.3 SAY SPACE(6)
@ ROW-1.13 SAY " |"
@ ROW-1.15 SAY SPACE(6)
@ ROW-1.25 SAY " |"
@ ROW-1.27 SAY LEFT(著者1,16)
@ ROW-1.45 SAY " |"
@ ROW-1.47 SAY LEFT(得名,32)
@ ROW-1.83 SAY " |"
@ ROW-1.85 SAY LEFT(出版者,8)
@ ROW-1.95 SAY " |"
@ ROW-1.97 SAY SPACE(8)
@ ROW-1.107 SAY " |"
@ ROW-1.109 SAY LEFT(受入先,8)
@ ROW-1.119 SAY " |"
@ ROW-1.121 SAY SPACE(10)
@ ROW-1.131 SAY " |"
*
??? CHR(27) "d" "1"
@ ROW-2.1 SAY " |"
@ ROW-2.4 SAY 受入日
@ ROW-2.13 SAY " |"
@ ROW-2.15 SAY 登録番号
@ ROW-2.25 SAY " |"
@ ROW-2.27 SAY SUBSTR(著者1,17,14)
@ ROW-2.45 SAY " |"
@ ROW-2.47 SAY RIGHT(書名,18)
@ ROW-2.83 SAY " |"
@ ROW-2.85 SAY SUBSTR(出版者,9,8)
@ ROW-2.95 SAY " |"
@ ROW-2.97 SAY 受入価格
@ ROW-2.107 SAY " |"
@ ROW-2.109 SAY RIGHT(受入先,6)
@ ROW-2.119 SAY " |"
@ ROW-2.121 SAY SPACE(10)
@ ROW-2.131 SAY " |"
ENDDDO
USE
wrap = .F.
rmargin = 79
ppitch = "PICA"
plength = 66
??? CHR(27) "T" "20"
??? CHR(27) " "
??? CHR(27) "d" "1"
SET PRINTER OFF
SET DEVICE TO SCREEN
SET TALK ON
RETURN

```

(右上に続く)

清泉女学院短期大学図書台帳（平成5年度 No. 17）

受入年月日	登録番号	著者	書名 巻次・版次	発行所	受入価格	受入先	記事
93/04/22	45409	飯田 精一 著	福祉を哲学する	近代文藝社	1425	平安堂	
93/04/22	45410	アメデ・テヴネ 著	保健医療と福祉の制度	法政出版	1710	平安堂	
93/04/22	45411	ロバート・F・マーフィー 著	ボディ・サイレント	新宿書房	2490	平安堂	
93/04/22	45412	石田 一宏 著	食と家族と子どもの自立	芽ばえ社	1174	平安堂	
93/04/22	45413	真田 是 著	社会問題の変容	法律文化社	2251	平安堂	
93/04/22	45414	真田 是 著	地域福祉の原動力	かもがわ出版	1900	平安堂	
93/04/22	45415	菅原 真理子 著	家族の経済学	ユージン伝(株)	1235	平安堂	
93/04/22	45416	伊藤 雅亮 著	学習障害児が出た時どうする？	明治図書出版(株)	1378	平安堂	
93/04/22	45417	村田 正子 著	老人保健施設実践マニュアル	中央法規出版(株)	1900	平安堂	
93/04/22	45418	厚生省大臣官房老人保健福祉部企画課 監修	新しい老人保健法	中央法規出版(株)	4275	平安堂	

(実物の1/2)

5. 作業実施の反省

単調な入力だけとか、出力だけという仕事のみでは職員のコンピュータ能力は向上しないので、一連の仕事の切れ目に窓をあけ、dBASE上で作業をするように計画していた。

このことはごく簡単なように思われるが、これが出来るには職員の意欲は勿論だが、前もってMS-DOSの知識をもっていなければ不可能である。

たとえば、図書台帳を出力したい場合登録番号によりファイルをソートしておかねばならない。そのとき、ファイルのレコード順が物理的にかわるので安全のためバックアップをとって実施するとか、ファイル名をかえるとか、登録番号に欠番があったらそれを埋める作業をしておくとかいろいろ準備しておかないと困る。これだけでもMS-DOSの知識とdBASEの基礎を知らないと出来ない。

もし職員が不明のことがおきた場合パワーユーザーがおり、すぐ解決してくれることができなければ仕事はかどらない。

窓を開けコンピュータ能力を高めるようにすることは一朝一夕には実現しない。時間と研修が必要である。幸い職員が意欲的で基礎知識を前もってもっていたのである成果が挙げることが出来た。

6. むすび

ワープロとコピー機以外は何もないOA環境から、システムとしては誠に貧弱であるが、コンピューター一台とプリンター一台で何とかOA化をし、新しい購入図書だけでも、データベースとして保存しようと試みた。現在は解決の糸口を探し当てた程度の小さい成果しか挙げることができなかった。しかしカード・図書台帳には手書きの文字は無くなりすべて綺麗な印刷文字に変えることが出来た。

図書館のOA化は投資額に見合う成果は期待出来ない傾向にあるが、経済効率の面からも効果があったとみている。

本学図書館はキリスト教関係の蔵書が多いので、早くデータベース化し外部からも検索できる環境にしたい。

ユーティリティーの作成をはじめもっと進んだOA化にこれからも努力する。

最後にご協力いただいた職員の甘利麗子さん、滝内理恵さんに感謝申し上げます。

参考文献

- (1) 私立短大図書館担当者研修会報告書(平成4年度) P 8 - P10
- (2) パソコンによる書誌情報管理入門 堀込静香・中馬敏隆、紀伊国屋書店、1992
- (3) dBASE IVプログラミング
ボーランド KK, 1993
- (4) dBASE IV言語リファレンス
ボーランド KK, 1993
- (5) dBASE IV活用 ボーランド KK, 1993